



インスペック 代表取締役社長

菅原 雅史 氏

半導体需要追い風に「創造社会を切り拓く」

1984年に仙北市角館町で電子部品の組み立てを担う会社として創業し、今年で40年を迎える。主力製品は半導体検査装置。電気自動車（EV）やエレクトロニクス分野での半導体需要の増加を追い風に飛躍を目指す。

検査装置は、軽く軟らかい半導体基板「フレキシブルプリント基板」（FPC）を口で電子部品の組み立てを担うのが特長。FPCは、ガソリン車に比べて重量化する傾向にあるEVの車内配線として需要が拡大しているという。

検査装置だけでなく、2022年にはFPCを製造できる「露光装置」の新型機を開発。既存事業と組み合わせ、需要を取り込みたい考えだ。「EVの普及は今後ますます進むほか、FPCの使い道はEV以外にも広がることが見込まれます。当社は今、創業以来最大の転換点に立っていると考えています」

22年11月、会社の社会的存在意義を示す「パーパス」をこう定めた。「確かな技術」は長年かけて培ってきた高度な技術やノウハウ、「あくなき挑戦」は創業以来の企業風土を表現した。

「確かな技術とあくなき挑戦で、創造社会を切り拓く」に出したのは21年夏ごろ。策定に当たり、22年に当時の全社



本社工場から最先端の基板検査装置が出荷される

員（79人）と面談した。「将来こうなりたい、こんな会社でありたいなど、社員の思いを反映させた言葉を選びたいと思いました。会社が困難に直面しても、この言葉を指針にすれば進むべき道が開ける、そんなパーパスにしたかったんです」と振り返る。

23年4月期の売上高は過去最高を更新した。今後はアジア市場への本格的な進出を進めて海外での売上比率を高く」と意気込む。

県内に本社を置く企業では数少ない東証上場企業として、強みを最大化し、企業の合併と買収（M&A）も視野に積極的な事業展開を目指す方針だ。「現在は東証スタンダード市場ですが、持続的な成長と安定した財務体質を実現し、30年にはプライム市場への上場を目指していきたい」と意気込む。



インスペック株式会社
〒014-0341 仙北市角館町雲然荒屋敷79-1
TEL.0187-54-1888
<https://www.inspec21.com/>
1984年1月6日設立
半導体パッケージ基板検査装置

